

烏場山山行報告

【山行日】2018年2月18(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー1台 : 4,500円

【メンバー】CL:鈴木、伊藤、大西、島田、関、
渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P5:00＝花嫁街道登山
口 P7:55/8:00～第二展望台 9:00/9:10～駒返し
10:00～烏場山 10:20/10:30～見晴台 11:10/11:50
～黒滝 12:30～はなぞの広場 12:40/12:50～
花嫁街道登山口 P13:00/13:10＝道の駅「富楽
里」13:20/13:50＝岩舟支所 P16:25



毎年2月に計画する房総のお山、今年は外房の烏場山に登ることにした。烏場山は岩崎元郎氏の新日本百名山に選ばれ、この時季は人気が高い山である。東北道から首都高速、アクアラインから館山道を進み富浦ICで降り国道127号を進む。途中から県道296号線を進むと近道で、信号も少なく和田町に出られる。和田浦駅の先にある道の駅「和田浦 WA・O」に寄り、トイレを済ませてから登山口に向かう。国道128号を進み「花嫁街道」の案内標識に従って左折し、踏切を渡って車1台がやっと通れるくらいの細い道を進むとトイレがある登山口に着く。道路の両側に車数台止められるスペースがあり、登山口のすぐ脇に止める。準備を整えストレッチを済ませ、花嫁街道入口の看板から山道に入る。すぐに薄暗いスギ混じりの雑木林の中を歩くようになり、足元は豪雨で流された枝で歩きにくい。天気は良いが気温が低く風があり、中々体が温まらない。第一展望台に着くが展望も無く寒そうな所で、パスして第二展望台まで行くことにする。こちら辺からスダジイの大木が目立つようになり、照葉樹の緑がいかにも房総の山らしい。ベンチがある第二展望台に着き、休憩を取ってリンゴと煎餅を食べエネルギーを補給する。展望台の南側が開け、和田浦の海がキラキラと輝いて見える。この先からマテバシイの林の中を歩くようになり、いつも歩いている景観と違い楽しくなる。すぐに「経文石」と案内板がある場所に着き、大きな木が岩を抱くように立っている。昔はここに経文が書かれていたらしい。アップダウンを繰り返しながら尾根道を進み、「じがい水」と案内板がある場所を通過し「駒返し」と書かれた場所に出る。ここから東に大きく曲がり、烏場山への尾根を歩くよう



になる。この稜線を歩くようになると陽射しを受け、風も弱まりとても暖かく感じられた。

見晴台(カヤ場)と言われる場所に出ると、日当たりがよく南側が開け太平洋が一望できる。トイレも有り休憩して S さんが使用したが、とても落ち着いて用を足せるトイレではなかったようだ。第三展



望台を過ぎると最後の急登になり、頑張って登ると烏場山山頂に着く。山頂には首をかしげた可愛い花嫁の石像が置かれ、「年齢を問わず縁結び承ります」と書かれ台座が賽銭箱になっていた。山頂からの展望が良く、360度の眺望が得られ山の方向を示す案内板が立っている。眺望を楽しみ、記念写真を撮ったら下山する。下山は山頂から反対側を下る「花婿コース」を降りて行く。

一旦東に向かって下り、すぐに南に向かって尾根を下るようになる。旧烏場展望台と書かれたピー

クを越え、尾根伝いに下ると最後の見晴台に着く。南斜面にある展望台はとても暖かく、ここでランチタイムとする。今日の山ご飯はチタケうどんとポテトサラダ、里芋の煮物、ほうれん草が皿に盛られ超豪華なランチだ。太平洋を眺めながら、御馳走をいただき至福のひと時を過ごす。お茶を飲ん

でのんびりしていると団体さんが到着し、我々は場所を空けて出発する。緩やかに下り金毘羅山を越えると、まもなく黒滝に着く。階段を下ると木製の観瀑台があり、周囲には滝不動や向西坊入定窟などがありかつては修行場だったようだ。滝壺の前で記念写真を撮り、沢沿いに付けられた遊歩道を進むとはなぞの広場に出る。かつてはキャンプ場だったらしく、草地の広場があり管理棟が残っている。少し先に駐車スペースとトイレがあり、トイレを借りて用を足す。ここから舗装



道路を道なりに進むと、朝スタートした花嫁街道入口の駐車場に着く。靴を履き替えたら車に乗り帰路に着く。ちょうど「菜の花祭」の最中であちこちで切り花が直売されていたが、混雑しているので寄らずに往路に戻る。館山道に入り「富楽里とみやま」PA に寄って買い物し、アクアライン、首都高速も順調に走り予定より早く岩舟支所に帰着した。